市長　だいたい山の方ですね。

安部　当時の水運、海運を考えれば、どうしても海の拠点となる城が欲しかったんですね。湿地帯に松の木のパイル(杭)を打ち込んで、その難事業を見事にやり遂げました。松やにが出ますから、時間が経っても水分で腐食しにくい性質を利用して地盤整備を行ったのです。その上で、今治城や津城のような幾何学的な城を日本で初めてつくった人物です。

もう一つは、それまでの城は、安土城などもそうですが、普通の屋根に見張り台を付けた、いわゆる望楼型というものでした。そういう城の形から、姫路城などのような層塔型といって、升を何段も重ねたような形の城に変えたのも高虎公です。そういう築城家としての先見の明、新しい技術の開発という点でも卓越していますし、その後も、彼は水軍を養成します。紀州にいたときは紀州水軍、熊野水軍を養成し、今治に行っても同じですね。やがて朝鮮出兵の際は、豊臣秀吉から水軍大将に任じられます。現代で言えば海軍大臣のようなものですね。家康公の時代になると、天下を謀るための参謀に任じられる、いわば知恵袋です。そんなふうに成長していった武将は、戦国時代を通して本当にまれで、素晴らしい人物だと思います。

秀吉や家康に頼りにされる戦国期を通して稀有な存在

市長　偉大な人物ですね。武将として、為政者として、さらに今回は文化の面にもスポットライトを当てようということで、人間関係をひも解いていきますと、小堀遠州につながります。いわば義理の息子に当たりますが、小堀遠州は大名でもありますし、武将でも為政者でもあり有名な文化人でもあります。

安部　小堀遠州は遠州流茶道の、優れた茶人の一人です。実は私も、藪内流を学んでいますが、当時の大名たちは茶道を通して文化的素養を磨いていました。単にお茶室の中だけではなく、数寄屋造りの建物も、周囲の庭も、使われる茶道具、掛け軸など、全ての総合芸術です。小堀遠州はそういったものをしっかりと学んだ先達であり、優秀な官僚でもあり、普請(道・橋・水路・堤防などの土木工事、建築工事)を指揮する普請奉行でもありました。

市長　庭も有名ですね。

安部　遠州流というのは至るところにありますからね。

市長　高虎公のもとに能力のある人間が集まってきたのは、高虎公がそういう人をつくっていったのか、あるいは自然な形でつながりができたのか、高虎公はどのようにいろいろな人物と関係を築いていったのでしょうか。

安部　一番大きいのは、豊臣秀長(豊臣秀吉の弟。大和・和泉・紀伊３国を治めた)だったと思います。高虎公は大和郡山百万石の大名であった秀長の家老でした。その家老時代につくった人脈、特に千利休(戦国時代から安土桃山時代にかけての茶人)との関係ですね。例えば、大友宗麟(豊後国を治めた戦国大名)が大坂城に行ったときに、秀長が「内々のことは利休が仕切っているし、外のことは私が仕切っているので、安心してくれ」と話したという記録がありますが、それぐらい秀長と利休の仲は親しかった。